



市立病院だより

ほほえみ

発行 越谷市立病院
 発行人 院長 丸木 親
 編集 院内情報誌編集委員会
 連絡先 〒343-8577
 越谷市東越谷10-47-1
 電話 048-965-2221 (代)
 F A X 048-965-3019
 発行日 平成30年4月 (No.35)

市立病院小児科の展望

副診療部長兼小児科部長

木下 恵司

平成30年4月より小児病棟が改装工事により新しくなりました。NICUとGCUを含め新生児の病床を9床に増床し、一般小児の病室については個室7床を含め14床にして、合わせて23床で再スタートします。これらの変更は、現在の小児医療の現場の変化に対応したものです。このことについて述べたいと思います。

予防接種を含めた疾病予防や医学および医療の進歩により、感染症は減少、気管支喘息なども軽症化、難治性疾患・慢性疾患の小児も生存・成長して在宅医療も可能となっています。これらのことは、小児医療の場が病棟から外来へ、さらには生活の場へ広がってきていることを意味します。

少子化と小児医療の進歩により入院患者をはじめ、小児患者は減少しています。今後これからの小児科医は地域や家庭、さらには社会に視点を置いた医療を展開することが必要になると考えられます。

これまでの当科は地域の二次病院として、感染症を中心に一般的な疾患の入院に対応し、地域の一次医療施設と高次専門医療機関と連携しながら地域医療に貢献してきました。このことには基本的に変わりはないものの、さらに地域に密着し、子どもの健康に関する保健活動（肥満予防、性教育、食育、障害児医療、救急医療教育等）について行政、教育機関などと協力していくことが求められると思います。さらに現在の勤務形態では困難ですが、在宅・訪問医療なども求められて来ると考えます。これらについては現在、埼玉県小児科医会プロジェクトが進行中です。また、虐待の問題も欠かすことはできません。埼玉県立小児医療センターを核として県内の虐待防止ネットワークの構築が進められています。

現在当院でも、30年度からCPT (Child Protection Team) の立ち上げを計画中です。また、日本小児科学会においては、小児医療提供体制の基本として「小児科医は子どもの総合医」たることを提言し、将来の小児科医に向けた8つのメッセージを発信しています。

1. いつでも、子どもたちの味方でいよう
2. 子どもたちそれぞれに個性があり、多様であることを尊重しよう
3. 子どもたちの現在、そして未来を育もう
4. 子どもたちを通して、家族や社会を応援しよう
5. 病院、診療所にとどまらず、外へも出ていこう
6. 社会における役割を考え、子どもたちに関わるすべての人たちと協働しよう
7. リサーチマインドをもって、小児科学、さらに広く学問を追究していこう
8. 子どもたちに関われる喜びを、広く社会に、そして次の世代に伝えよう

当科も小児科専門医教育認定施設として、そのような小児科医を育てる責務もあります。

最後に、新病棟に移行後、レスパイト入院と付添のない入院について検討中です。以上、述べたことが「絵に描いた餅」にならないように、小児科スタッフ一同、日々努力を重ねたいと思っております。

7・2病棟(小児病棟)

改修工事について

庶務課 佐藤 和行

七海 孝志

当院では、平成28年度から30年度までを期間とする市立病院経営ビジョン「第四期中期経営計画」に掲げた「病棟再編」の施策として、効率的な病床運営を目指し、7・2病棟改修工事を実施しました。

具体的には、NICU(新生児特定集中治療室)3床、GCU(新生児治療回復室)6床を設置し、周産期医療の充実を図るとともに、小児感染症患者用として、また、希望の多い個室の増床と転院・退院待ち患者用の混合病床を新たに整備しました。

★GCUとNICU

専門のスタッフが24時間体制で診療します。



★増床した個室
トイレがあり感染症の入院にも対応可能です。



★受付カウンター
空をイメージした明るい雰囲気です。



【周産期医療】

周産期とは妊娠後期(妊娠満22週から)から新生児早期(生後満7日未満)までのお産にまつわる時期を一括した概念をいいます。この時期に母体、胎児、新生児(妊娠の異常、分娩期の異常、胎児・新生児の異常)を総合的に管理して母と子の健康を守る医療です。

【NICU(新生児集中治療室)】

早産などによる低体重児や先天性の重い病気を持つ新生児を受け入れ、専門医療を24時間体制で行います。保育器や人工呼吸器、心拍や呼吸の監視装置の常備と、常勤の新生児専門医師、専従の当直医師、患者3人に対して看護師1人以上などの条件が施設基準で定められています。

【GCU(新生児回復治療室)】

「継続保育室」「回復治療室」「発育支援室」など、さまざまな訳語が当てられています。NICU(新生児集中治療室)で治療を受け、低出生体重から脱した新生児、状態が安定してきた新生児などが、この部屋に移動して引き続きケアを受けるものです。



おおぞら学級

入院しながら学べます

小学部担任 須黒なおみ
中学部担任 岡村真佐美

① おおぞら学級の概要

越谷市立東越谷小学校と越谷市立東中学校の分教場として、平成8年4月に開級しました。越谷市立病院に入院している小学生、中学生が対象の病弱・身体虚弱特別支援学級です。一人一人の健康状態や学習進度に合わせて入院しながら学ぶことのできる場所です。

この学級には、越谷市内だけではなく、近隣市町村の子ども達も在籍しています。

また、おおぞら学級で学習した日は学校に「出席」したことになりますので、病気による欠席日数が少なくてすみます。

② 毎日の生活

小学生は学年によって異なりますが、基本的には午前3時間、午後2時間の授業があります。お昼は病棟に戻って食べます。毎週水曜日には外国人講師による英語活動があり、子ども達も楽しみにしています。医師の許可により、バルコニーや廊下で体育の授業(卓球・バドミントン・トランポリン・球技)も実施して



います。

また、特別支援学級には「自立活動」の時間があります。自分の特性をよく知ること、少人数の落ち着いた環境の中で学習することなどを通して、心の健康を高めていきます。

③ 季節感あふれる行事

入院すると家族や学校という社会生活から離れるため、刺激に乏しくどうしても単調な生活になりがちです。生活にリズムや変化を与え心身の健康回復を促すために、様々な行事を実施していますので、その一部を紹介します。

* 始業式、終業式、修了式

*七夕、夏祭り、ハロウィン、クリスマス会

*ジャガイモ堀り、サツマイモ堀り

*みかん狩り、柿狩り

*わくわくアート展への出品と見学会

*お別れ遠足、卒業進級を祝う会

おおぞら学級



クリスマスカード

新採用医師の紹介

○12月1日付

(内科)

齊藤 大祐
さいとう だいすけ

(小児科)

水谷 亮
みずたに あきら

編集後記

皆さん冬季オリンピックピックは見ましたか？日本で歴代最高数のメダル獲得、すごかったですね。

あの舞台に立つには本人の努力はもちろん、周りのサポートや無償の愛が集まっています、1人1人にドラマがあると思うと勝っても負けても感動です。それに選手は何度も自分の限界を乗り越えてたどり着いた大会で、100%の力を出し切っても勝てない、100%の力を出したくても出せない…どんなに悔しく、切なく、悲しい思いをするのだろうと想像します。それでも結果を受入れ、腐ることなく前を向いて笑顔で次の課題やオリンピックピックに取り組んでいく姿勢は、まさに勇気を感じました。

私もうまくいかないときや逃げ出したいときがきてもオリンピックピック選手のように勇気を持って取り組もうと思います。

いつかきつと金メダルがもらえるかも？
うんっ！そだね☆(カーリングより)

院内情報誌編纂委員長 尾羽澤 英子